子どもたちの成長と共に

日進北中PTA母代の川越さん（岩崎町）

日進の木・キンモクセイ物語

お盆休みの8月、竹の山小学校近くの住宅街を歩くと、キンモクセイの木が植えられている民家を見つけた。夫婦、長男、長女の4人で暮らす川越さん一家。「夫は今日も仕事。娘は高校の吹奏楽部の練習に大忙し。息子は1人で夫の実家の加賀まで遊びに出掛けました」と、子育てに奮闘する茂子さん（45）が元気に出迎えてくれた。

「手入れをしていないせいか、うちの木は本当に育っているのかしら…」。それもそのはず。門扉横の花壇に育つ3本のキンモクセイの樹高はまだ1㍍程。小さな木だが、濃い緑色の葉を付け、毎年数㌢ずつ生長している。

茂子さんは夫の亘さん（44）と1998年に結婚し、翌99年に日進市に新居を建てた。音楽に造詣が深く、長女花音さん（高2）が誕生した2000年頃、自宅でピアノ教室を始めた。3年後に長男大聖君（中2）が生まれた。キンモクセイはいずれも市の行事で受け取った記念樹。古い木で樹齢10年になる。ただし、庭でひときわ目立つのは1本の紅梅の木。すっきりした庭にしようと植えたはずだったが、自宅2階の高さにまで枝葉が生い茂り、剪定に一苦労しているという。

愛知万博が開催された2005年以降、竹の山地区の住環境が劇的に変わり、2013年4月には小中併設校「竹の山小」「日進北中」が開校した。茂子さんは、地域の保護者らとのつながりで3年前、同小のPTA母代を経験。今年度は同中のPTA母代を担当し、夏祭りなどの行事に奔走する。「役を引き受けてどうしようかと悩みましたが、結果知り合いが増え、学校のことも子どもの様子も分かってプラスでした。PTAは敬遠されがちですが、親としてぜひかかわって」と呼び掛ける。

子育ての苦労が吹き飛ぶうれしい出来事もあった。花音さんが同中吹奏楽部3年だった2年前の夏、東海吹奏楽コンクールで見事金賞に輝いた。「満点の出来栄えに娘たちが涙を流して喜んだ思い出は、親にとっても一生の宝です」

一方、大聖君は小学校時代からずっとサッカーに夢中だ。意見をはっきりと言える花音さんとは対照的に、外ではおとなしい性格。「最近家族がそろう機会が減って寂しいですが、これも成長の証かも。息子の決め台詞は『かあさん、おれもう子どもじゃないから』とかわいいもんです。来年はダブル受験の年なのでどうなることやら（笑）」

1974年当時、「町の木」に決まったキンモクセイをテーマにした「キンモクセイ物語」の連載は今回で最終回です。43年もの月日と共に日進市は大きく成長しました。街並みが変わりゆく中で、家族にとってずっと変わらない存在こそ、キンモクセイです。

全12話で登場した皆さんの記念樹には、家族の成長の思い出がぎっしりと詰まっていました。いつまでも大切に育ててください。（広）＝終わり

⬆キンモクセイを紹介する川越さん。小さくても秋に咲く花の香りが楽しみ